

日本語科目における言語行動目標の設定

— Can-do-statements を利用して —

Trial of Communicative Language Activities Description for Japanese Language Classes

島田 めぐみ・谷部 弘子・斎藤 純男

Megumi SHIMADA, Hiroko YABE, Yoshio SAITÔ

留学生センター*

要 旨

東京学芸大学留学生センターが開講する日本語科目に関して、レベル設定が有効であるかを検討し、各レベルの解釈基準を記述するために、日本語プレースメントテスト受講者を対象にCan-do-statements調査を実施した。Can-do-statements調査は81項目の言語行動について、1から7までの7段階評定尺度にて学習者が自己評定するものである。Can-do-statements調査の結果、各レベル、各技能の科目について、「複雑で抽象的なもの、専門的なものが読めるようになる」(上級、講読)のような言語行動目標を設定することができた。各レベルが目標とする水準を言語行動で示すことにより、次の利点が生じると考えられる。1) 海外協定校の日本語教員、留学希望者に対し、東京学芸大学留学生センターの日本語科目に関する、より具体的な情報を提供できる。2) GISECの日本語教員に対し、有益な情報を提供できる。3) 受講者にとって、明確な目標レベルが提示できる。

キーワード: プレースメントテスト, 言語行動目標, Can-do-statements, 日本語科目, レベル設定

* Tokyo Gakugei University (4-1-1 Nukui-kita-machi, Koganei-shi, Tokyo, 184-8501, Japan)